



消防署横の交差点を中心に、多くの車が行き交い活気あふれる中河原地区。その前身は中羽場の下段地籍にあたり、「中河原」としての誕生は戦後になってからのことです。かつて土地条件は百点とはいえませんでしたが、天竜川原の平らで広い土地が、中河原発展的主要因です。住宅団地の造成を機に、平成に入つて人口は一気に増加しました。歴史こそ浅いものの、新旧住民のまともも良く、運動会でのこのところ連覇を果たしています。地域の新たな歴史文化創造が期待される一方で、リニア新幹線開通が大きな課題として浮上しています。



## 知っていますか?『座光寺の歌』

### 座光寺の歌

作詞..伊谷唯介 作曲..正木由布

一 紫におう 座光寺富士は 今ぞ黎明  
世紀は明けぬ 青春の この里に 手をとりて  
共に 共に築かん  
おお文化 おお文化 我等の希望

二 流れて遠き 天竜の水は 常に清新  
時代は来たり 新生の この郷に 聲あげて  
共に 共に歌はん  
ああ平和 ああ平和 我等の使命

昭和二十三年九月、「座光寺の歌」の募集が行われ、多くの作品が村民から寄せられました。翌二十四年十二月の村歌発表会で披露され、その後しばらく、地区的行事などで歌い継がれました。この「座光寺の歌」と「座光寺音頭」(大正14年誕生)が、

平成十二年の夏祭りの再開を機に自治会の手で復活しました。座光寺富士(猪ノ山)と天竜の流れを背景に、「文化」と「平和」という当時の、そして永遠のテーマが詠い込まれています。誕生当時に想いを馳せ、歌詞をじっくりご覧ください。

ふるさとパック  
夏の味覚満載便  
2,000円(送料別)



「ふるさとパック」は  
旬の座光寺農産物の詰め合わせ。  
ふるさとを離れて暮らす方に、  
自然の香りや  
懐かしい味をお届けしています。

- お申し込み先 座光寺自治振興センター内  
麻績の里ふるさと応援俱楽部  
(TEL.0265-22-1401・FAX.0265-22-1475)  
E-mail:zakouji@city.iida.nagano.jp
- お申し込み締切 平成27年8月末
- お届け時期 平成27年8月末~9月上旬  
※代金は商品到着後にお支払いください。





工事中の阿島橋(昭和41年3月)



営林署座光寺貯木場(昭和50年11月)

## 20年の歴史の重み。 最大の課題はリニア。

清水 明さん  
(中河原●組)

平成5~6年にかけて貯木場跡地に25軒の真新しい家が建ち、一帯の景観は一変しました。中河原地区は若い世代を中心に人口が増え、活気を取り戻します。

清水明さんも新住民の一人として、40歳のときに伊賀良からここに越してきました。「25軒もの新しい住民が一度に移住してきたのだから、地区の人もとまどったと思う」。当初は地元のやり方になじめないところもありましたが、「いろいろな役をやり、昔からいる人たちと酒を飲み、時間をかけてお互いの信頼関係を築いてきた」といいます。

清水さんが何より力をこめるのが、この20年余の重みです。「自分たちが地域に深く愛着を感じ、地域が本当にまとまるには20年かかる」と明言します。

そんな地域が現在直面している問題が、リニア新幹線の開通。現在の居住地区が計画では二つの分断されてしまいます。「みんな20年という長い時間かけて、ここに根を張ってきた。私自身もここが気に入っているし、終の棲家だと思っています」と思いを語ります。今まで築き上げた生活環境や地域のまとまりを、リニアとの関係でどう折り合いをつけていくのか。培ったコミュニティの力量が試されます。

## 昭和から平成へ

天竜川の渡船(阿島渡船)



水辺の広場

天竜川の渡船(阿島渡船)は、昭和二十五年頃まで続けられていきました。現在、座光寺側の渡船場一帯は「水辺の広場」として整備されています。

昭和四十年に地域の悲願であった阿島橋が完成します。当初、歩行者以外は通行が有料でしたが、四十九年に無料化となりました。

昭和五十年には営林署の貯木場が開設されました。赤石木曽両山脈の国有林から伐り出

河原は豊かな水田地帯に生まれ変わりました。豊富な地下水を活かした養鯉業も、昭和四十年代に最盛期を迎えます。当時の戸数は十五ほどでしたが、その全戸が鯉の養殖を生業にしていました。

## 未来を見つめて

戦後に誕生した中河原地区は、歴史が浅いため伝統的な芸能文化等はありません。しかし地区のまとまりは良く、新旧住民の交流も活発です。今後は世代を越えて後世に伝え継承していく、伝統文化の創造が望れます。

奥深い課題としては、リニア新幹線への対応があります。計画ではこの軌道が住宅団地を貫通します。まとまりを一層強化し、より良い将来を地域一体となって考え描く必要があります。



三六灾害で氾濫する天竜川



阿島渡船(昭和25年頃)

## 明治から戦後

中河原へ最初に人が移住したのは、明治初期(四十七年ごろ)といわれています。天保二年の石川除(いしかわよけ)堤防に続き、明治二十年から三十七年にかけて内堤防が造られ、少しずつ開拓が進みました。とはいっても居住地としての条件に恵まれていたとはいえず、明治末期でも五軒ほどの家屋が建つ程度でした。

思うように定住が進まない原因は、水はけの悪い土地柄にありました。腰まで水に浸かり、舟を使って稻を刈る姿が、戦前までよく見られたといいます。

戦時中、食糧増産の国策から湿田の排水事業が行われました。そして戦後にいたり耕地整理事業が完工されます。着工、三六災害、工事再開と、幾多の壁を乗り越えて事業は完了し、中

座光寺 19地区探訪⑥

# 歩けば!が見えてくる 中河原



中河原遠望

